

# 日本教育大学協会 全国美術部門 会報 No.48

編集・発行 全国美術部門広報室  
代 表 増田金吾 (東京学芸大学)  
総務局長 芳賀正之 (静岡大学)  
事 務 部 佐藤聡史 〒389-0406 長野県東御市八重原 2912  
TEL: 090-2560-5998/FAX:0268-61-6162  
E-mail: daibibumon@po15.ueda.ne.jp  
事務支局 〒602-804 京都市上京区下立売通小川東入る西大路町  
146 番地 中西印刷株式会社 学会部内  
TEL: 075-415-3661/FAX: 075-415-3662  
E-mail:art-bumon@nacoss.com

## 『全国美術部門の現在と未来』

全国美術部門副代表 岩村 伸一(京都教育大学)



日本教育大学協会(以下「教大協」)は、昭和24年11月15日に、「会員相互の協力によって、大学・学部の質的向上と教育に関する学術の発達を図り、もってわが国教育の振興に寄与すること」(規約第4条)を目的に発足しました。この協会は、「国立大学法人のうち教育に関する学術の研究及び教育者養成を主とする大学・学部を会員として組織」(同第2条)されています。「全国美術部門」は、この日本教育大学協会に置かれた19ある全国研究部門の一つです。教大協には、教員養成系の国立大学・学部が組織加盟をしており、それらの大学・学部所属する専任教員は教大協の会員になっています。つまり、教員養成系の国立大学・学部の美術関係講座に所属する教員は「全国美術部門」に属する会員となります。

平成16年4月にすべての国立大学が、「国立大学法人」となり、法人化後はどの大学も目まぐるしく改革に追われ、そのことは「全国美術部門」の活動にも大きな影響を与えました。平成18年度から23年度の代表を務めた橋本光明元代表が「残念ながら18、9年度の旧体制下では、部門・学会の会員管理と会費収支等の事務処理などで大わらわであり部門活動の充実を視野に入れながらも取り付く島もない状態でした」(会報No.38)と語るように、平成20年度以降の新体制＝総務局体制において、部門活動の復活は大きな課題でした。そのきっかけをつくったのが、平成21年度から始まった教科内容に関する検討会でした。平成21年度の愛知大会における部門協議会でのシンポジウム、平成22年2月26日に開催されたフォーラム「明日を創る美術教育」は、その成果を会員に示

した場にもなりました。平成24・25年度の代表を務めた藤江充元代表は、「教育の危機が言われるなかで、美術教育が我が国の教育の振興にどのように貢献できるのかが問われています。この部門は、教員養成そして研修の当事者として、その問いに応えていくことが求められています。教科内容学の検討などもその一環です。そのためにも、もう一度、この美術部門の原点に立ち返る必要があります。」(No.39)、と述べています。まさに、部門の活動の取組の原点を示したのが、この「教科内容学検討委員会」でした。

平成24年度から「特別課題検討委員会」と名称を改め、主に関東地域の教科専門担当者によって頻りに検討会が持たれています。そして、3年間議論してきた図画工作科・美術科における教科内容の研究結果として、冊子『うみだす教科の内容学 図工・美術の授業でおきること』が刊行されました。

「全国美術部門」では、地区ごとに様々な活動を展開しています。それらの活動は毎年、会報上にて報告していただいております。地区会から出された意見・要望等が全国大会の時期に合わせて開催される協議会で検討され、それを各種委員会でも検討することにより、部門全体の活動が活性化していきます。それぞれの地区の活動を充実させていくことが、部門活動の再生には欠かせないのです。それは、「全国美術部門」との一体化を図る「大学美術教育学会」の活動にも大きく影響します。部門と学会、ともに独自性を打ち出しながら、これまで以上に発展していくことを期待します。

## 平成26年度 役員・各種委員会委員一覧

■代表 増田金吾（東京学芸大学 26-27）

■副代表

（正）岩村伸一（京都教育大学 25-26）

（副）福本謹一（兵庫教育大学 26-27）

■特別委員 大嶋 彰（滋賀大学 26）

山口喜雄（宇都宮大学 26）

■総務局

総務局長 芳賀正之（静岡大学 26-27）

部門部長 新野貴則（山梨大学 26-27）

総務局理事

郡司明子（群馬大学 25-26）

松尾大介（上越教育大学 25-26）

喜多村徹雄（群馬大学 26-27）

石上城行（埼玉大学 26-27）

相田隆司（東京学芸大学 26-27）

畠山智宏（清和大学短期大学部  
26-27）

■学会大会運営委員

宮崎光二（福井大学 25-26）

渡辺邦夫（横浜国立大学 26-27）

■監事 西村俊夫（上越教育大学 25-26）

小澤基弘（埼玉大学 24-26）

■事務部 佐藤聡史（民間 21-26）

■地区全国委員

I〔北海道〕

坂巻正美（北海道教育大学岩見沢校 25-26）

佐藤昌彦（北海道教育大学札幌校 26-27）

〔東北〕

蝦名敦子（弘前大学 25-26）

煤孫康二（岩手大学 26-27）

II〔関東〕

松島さくら子（宇都宮大学 25-26）

茂木一司（群馬大学 26-27）

III〔北陸〕

隅 敦（富山大学 25-26）

阿部靖子（上越教育大学 26-27）

〔東海〕

松本昭彦（愛知教育大学 25-26）

山本政幸（岐阜大学 26-27）

IV〔近畿〕

岩村伸一（京都教育大大 25-26）

世ノ一善生（滋賀大学 26-27）

〔四国〕

福井一真（愛媛大学 25-26）

金子宜正（高知大学 26-27）

V〔中国〕

新井知生（島根大学 25-26）

福田隆眞（山口大学 26-27）

〔九州〕

栗山裕至（佐賀大学 25-26）

佐藤敬助（長崎大学 26-27）

■学校美術教育支援委員会

（略称「学校支援委員会」）

委員長（全国美術部門代表代理・兼務）

山口喜雄（宇都宮大学 26-27）

○附属学校部会

部会長 佐藤昌彦（北海道教育大学 26-27）

副部会長 伊藤文彦（静岡大学 26-27）

委員 片野 一（福島大学 26-27）

委員 遠藤敏明（秋田大学 25-26）

○学校教育支援部会

部会長 天形 健（福島大学 26-27）

副部会長 柳沼宏寿（新潟大学 26-27）

■特別課題検討委員会（H26年度 11名）

委員長 小澤基弘（埼玉大学 26）

委員 石井壽郎（東京学芸大学 26）

石上城行（埼玉大学 26）

大泉義一（横浜国立大学 26）

喜多村徹雄（群馬大学 26）

郡司明子（群馬大学 26）

齋江貴志（群馬大学 26）

神野真吾（千葉大学 26）

高須賀昌志（埼玉大学 26）

林 耕史（群馬大学 26）

西村俊夫（上越教育大学 26）

西村德行（東京学芸大学 26）

■大学造形教育連絡協議会

<全造連大会開催地区大学及び近隣地区

代表委員>（H26年度 5名）

委員長 山口喜雄（宇都宮大学 26-27）

※部門代表代理

副委員長 天形健（福島大学 26-27）

総務局 新野貴則（山梨大学 25-26）

委員 井坂健一郎（山梨大学 25-26）

## 平成26年度 日本教育大学協会全国美術部門地区会報告①

### ◆東北地区

日時：平成26年6月20日（金）14：00～17：30

会場：秋田キャッスルホテル 4階 「桐の間」

参加者：弘前大学（石川善朗、蝦名敦子）、岩手大学（藁谷収）、宮城教育大学（立原慶一）、福島大学（新井浩、加藤奈保子）、山形大学（降籬孝、和田直人）秋田大学（笠原幸生、遠藤敏明、猪巻明、長瀬達也、石井宏一、佐々木千佳）14名

議長：降籬孝（山形大学）、笠原幸生（秋田大学）

■協議事項に先立ち、開催校の秋田大学より挨拶があり、その後本年4月の学部改組で一課程一学科に再編された現況についての報告があった。

#### ■協議事項

1. 北海道地区と東北地区会の運営体制について：「北海道・東北ブロック」の学会開催ローテーションを北海道地区と東北地区で交互に引き受けることを確認し、東北地区大会における地区全体での支援、連携を図ることを確認した。
2. 学会誌の査読体制について：論文の質的向上を図るための査読体制についての問題について提案された。これに関して、代表理事会で示された、学会誌編集および査読体制を変更する今後の方針が報告され、専門性に適合した査読者選定が引き続き必要であるという共通認識が確認された。

#### ■談話題

1. 各大学の入試状況：各大学の志願者倍率について、横ばいまたは低下している現況が報告され、定員を超えている大学においても、年度によってばらつきがあるという状況が話題とされた。また倍率の上昇が学生の質の低下につながるのか注視する必要がある。充足率の低下と入試科目の関連も考えられる。さらに教育学部ミッション再定義による新課程廃止の方針により、将来の入試状況が左右される不透明な状況にある。昨今の美術関係専攻の定員割れが起きている現状をふまえ、各大学の行っている対策、取り組みについて意見交換を行った。
2. 各大学の就職状況：教員就職率が全体として低下傾向にある中、美術関係専攻・コースの就職率、教員採用率についても現状維持もしくは低下が認められる。一般企業や公務員への就職も多いが、いわゆる公務員浪人が増えている現状も指摘された。
3. ミッション再定義による各大学の動向：各大

学の現況について、大学院修士課程の今後ならびに教職大学院の状況も絡めて報告がなされた。岩手大学では、学部改組に向け新課程の廃止方針が示され、組織再編が図られる見込みであることから今後も動向を注視する。秋田大学では一昨年からの学部改組の過程について報告があった。教員養成課程については、次期改組も睨んだ小学校教員養成強化の方針も示されている。宮城教育大学では東北地区広域拠点型大学としての役割を担う方針のもとで、すでにゼロ免課程の廃止、教職大学院の設置が行われた。弘前大学では地域密接型を目指した教員養成中心の教育学部再編が行われる予定であるが、すでに新課程の廃止と教職大学院への教員移行を含めた縮小方針が示されている。

4. 大学院修士課程の現状と今後：宮城教育大学では、従来の修士課程と教職大学院が並置されているが、将来的に教職大学院への一本化を狙う大学の方針があることから、その中で美術の位置づけについて今後注視する必要がある。また小学校教員免許取得の状況、小学校における美術教育についても情報交換を行った。
5. 秋田公立美術大学の影響：弘前大学では、昨年の入試定員割れに際し秋田公立美術大学開設の影響が推測されたものの、今年はオープンキャンパスでの取り組みなどもあって回復したことが報告された。秋田大学も含めた各大学は今後も動向を見守りたい。
6. その他：「教職実践演習」の運営状況について、授業実践を中心に各大学の情報交換を行った。全学年を通して常に現場と学生が関わりをもつプログラムを組み、実習に力を注いでいる弘前大学の取り組みが紹介された。

協議会終了後の懇親会では大学相互の情報交換が活発に行われ、親睦を深める機会として大変有意義なものとなった。（報告：秋田大学）



## 平成26年度 日本教育大学協会全国美術部門地区会報告②

### ◆関東地区

下記要領で I. 支部総会・II. 研究協議会を開催いたしました。

日 時：平成 26 年 6 月 21 日(土)15:00~17:30

場 所：茨城大学図書館 3 階セミナールーム

出席者：東京学芸大学（石井壽郎，太田朋宏，西村德行，花澤洋太）横浜国立大学（小野康男，原口健一）千葉大学（後藤雅宣，宮崎甲）宇都宮大学（梶原良成，株田昌彦，本田悟郎）群馬大学（春原史寛，林耕史，茂木一司）山梨大学（井坂健一郎，菅沼研一）埼玉大学（石上城行，小澤基弘，高須賀昌志）筑波大学（直江俊雄）茨城大学（甲斐教行，片口直樹，金子一夫，小泉晋弥，向野康江，島 剛，島田裕之，寺本輝正）

#### I. 支部総会

1. 前年議事録確認
2. 支部長報告 本年度関東地区理事（群馬大学 茂木）
  - ①平成 26 年度役員状況
  - ②平成 26 年度全国美術部門全国委員会の報告
  - ③平成 26 年度大学美術教育学会運営委員会の報告
3. 各大学近況報告
4. 平成 25 年度会計決算報告（千葉大学）
5. 平成 25 年度会計監査報告（横浜国立大学）
6. 次期全国美術部門地区委員選出
7. 次期支部会研究協議会の開催について
8. その他

・平成 27 年度全国大会は関東地区から横浜国立大学においての開催が承認された。

・所在不明となっている「支部会規定」の確認のため、各代議委員は探して事務局に報告することを申し合わせた。

#### II. 研究協議会

1. 承合事項
2. 協議事項

○協議題目「教職大学院設置と小学校教育特化に対する美術科としての対応」に関して、承合事項をもとに、各大学から現状について報告された。

○各大学の報告を受けて、以下の観点で自由討論が行われた。また、美術教員養成に責任を持つ教育系学部・大学の美術教育講座の役割の明確化や縮小化に対抗した取り組み、次期学習指導

要領改訂に対する具体的な運動の展開をする必要性が議論された。

- ・今日の理系人材育成に偏重した文科省の要請に対する危機感
- ・美術に対する時代と社会の要請と乖離する教育の要請
- ・美術の本質的意義の追求とその共有の必要性
- ・特別課題研究委員会の存在理由と活動内容の発信
- ・美術教育現場(美術科)の総意の構築と、その意見陳情の必要性

(宇都宮大学 松島さくら子)

### ◆北陸地区

日時：平成 26 年 10 月 3 日（金）11：00～12：00

場所：福井大学文京キャンパス総合研究棟V（教育1号館）一階大会議室

出席：新潟大学（佐藤哲夫・柳沼宏寿）、金沢大学（江藤望・鷲山靖・池上孝之・大村雅章）富山大学（上山輝・隅敦）、上越教育大学（阿部靖子・松尾大介・安部泰）、信州大学（岡田匡史）、福井大学（宮崎光二・湊七雄・坂本太郎） 計 15 名

#### ○協議事項

1. 開会
2. 挨拶（当番大学）
3. 参加者自己紹介
4. 議長選出
5. 報告事項
  - ①日本教育大学協会全国美術部門委員会報告
  - ②大学美術教育学会理事会報告
  - ③平成 25 年度事業報告と会計報告
  - ④平成 26 年度事業計画と会計予算
6. 協議

・ミッションの再定義について

・教職大学院の設置について

・少ないスタッフでいかに指導内容の充実を図っているのか、その工夫について

福井大学からは、教職大学院の学校拠点校方式・県教委との連携等、先進的な取り組みについて紹介があり、他大学からの参観者を多く受け入れている実態が紹介された。

#### 7. 承合事項

・教職大学院新設の進捗状況と、従来の大学院の

## 平成26年度 日本教育大学協会全国美術部門地区会報告③

処遇について

- ・北陸新幹線の開通に伴い、入学希望者（学部、大学院とも）へのアピールする用意、または予定があるか。
- ・地域の美術館を活用するなど、地域の文化団体と連携した活動について。

特に、教職大学院の設置については、福井大学、上越教育大学を除いて、他大学は平成28年度以降に行われることもあり、現時点の進捗状況および、従来の大学委員の処遇について等、詳しい報告がなされた。

8. その他・質問
  - ・次期協議会開催大学について
  - ・次期地区役員・地区理事の選出について
9. 閉会
10. 諸連絡
11. 写真撮影

(富山大学 隅敦)

### ◆東海地区

日時：2014年6月28日（土） 10時～15時  
場所：名古屋国際センター5階 第六会議室  
出席：（静岡大学）白井嘉尚，伊藤文彦，名倉達了，大宮康男（三重大学）山田康彦，山口泰弘，上山浩，岡田博明，奥田真澄，関 俊一（岐阜大学）佐藤昌宏，辻 泰秀，野村幸弘，山本政幸（愛知教育大学）野澤博行，富山邦夫，樋口一成，杉林英彦，永江智尚，松本昭彦

地区会開催にあたり、午前は参加者による自己紹介の後、以下の事項について報告並びに協議を一部行った。また、昼食時には年度末に退職する教員からの挨拶があり、和やかな雰囲気の中で種々の話題についての情報交換がなされた。午後からの協議再開後も活発に意見が交わされた。とりわけ入試に関しては、出願者の低迷について、高校生の美術に対する関心の低下や、教職への魅力の低下等の意見が出された。また、教員養成における専門科目の在り方については、時間の都合上、授業担当者からの現状報告に留まった感は否めないが、どんな学生を育て、学校現場へ送り出そうとするのか（カリキュラムポリシーとディプロマポリシー）について考える契機になったであろうか。

○報告事項

1. 平成25年度全国美術部門協議役員会より
2. 平成25年度大学教育学会拡大理事会より
3. その他

○協議事項

1. 平成26年度部門・学会地区全国理事の選出について
2. 平成27年度の東海地区会開催大学について
3. 志願者数の動向（入試情報）について
4. 図工科・美術科の動向に関する情報交換
5. ミッションの再定義に伴う教員養成における専門科目の在り方について
6. 地域連携について
7. その他（進路・就職状況等）

(愛知教育大学 松本昭彦)

### ◆近畿地区

◆日時：平成26年6月1日（日）13:30～16:00

◆会場：滋賀大学 大津サテライトプラザ

◆参加：京都教育大学：岩村伸一（25/26年度委員）、村田利裕、丹下裕史／滋賀大学：世ノ一善生（26/27年度委員）、藤田昌宏、隼瀬大輔／和歌山大学：永守基樹／神戸大学：鈴木幹雄／大阪教育大学：高間由香里／奈良教育大学：狩野宏明／兵庫教育大学：高木厚子

◆内容：

◇地区全国理事（H25・26）の司会進行。挨拶、参加者自己紹介

◇会計報告と近畿地区美術部門会員名簿確認・更新

◇現状報告

以下の項目に関してそれぞれの大学が報告を行った。

- (1) 大学内予算配分の現状と問題点
- (2) 院生・学部生の在籍状況
- (3) 学部入試の状況と取組
- (4) 教員採用・就職の状況と試験対策
- (5) 大学改革などに関する取組状況
- (6) 各大学における県や地域の現場美術教育組織と大学との連携や協力関係の現状(地域の子どもたちとのイベントなども含む)の実施状況
- (7) その他。

各大学からの主な報告内容は以下。

- ・京都教育大学：京都教育大学附属学校・園こ

## 平成26年度 日本教育大学協会全国美術部門地区会報告④

ども美術作品展／教育学研究科の専修・コース募集人員変更方針案

- ・滋賀大学：新しい卒業研究指導体制（教科教育論文と教科専門の2つを課す）の成果報告／遅くとも平成33年度設置を目指して教職大学院設置構想中。
- ・和歌山大学：平成28年度設置予定の教職大学院への動き／平成26年度からの教員組織の改革／和歌山近代美術館との連携
- ・神戸大学：学内組織改革／美術館等と連携したワークショップ等
- ・大阪教育大学：卒業・修了研究記録冊子／美術教育コース広報ポスター／学長特別プロジェクト イエローライン・プロジェクト
- ・奈良教育大学：教員養成高度化（平成28年度大学院改組）／美術教育と幼年教育、附属幼稚園が連携した「どろんこワークショップ」
- ・兵庫教育大学：平成28年度実施予定のカリキュラム改革／学部・大学院のコース構成

### ◇協議事項

- ・卒業/修了制作展について。予算獲得や記録冊子発行などの運営に腐心している様子を報告しあい共有した。教育・研究成果発信の場として、卒業・修了研究発表会の重要性を再確認した。

(滋賀大学 世ノ一善生)

### ◆四国地区

日 時:2014年6月21日(土) 午後12:00~14:30

場 所:愛媛大学 教育学部本館 美術合同演習室1

出席者:高知大学:金子 宜正、鳴門教育大学:山田 芳明、香川大学:古草 敦史、愛媛大学:原田 義明、千代田 憲子、佐々木 昌夫、秋山 敏行、福井 一真 以上8名

#### 議題

##### 1. 拡大理事会・部門協議役員報告について

本年度四国地区全国理事(福井)より、2014年3月15日に開催された「平成25年度第2回大学美術教育学会拡大理事会」、「平成25年度第2回日本教育大学協会全国美術部門」についての報告が行われた。

- ・全国美術部門協議役員会における「大学造形教育連絡協議会」の人事についての経緯で選出

されたのか、資料④「大学造形教育連絡協議会規定(案)」との整合性についての質問があり、秋山先生(愛媛大学)が山梨大学の新野先生に状況の確認。

- ・学会誌のアウトソーシング化について、現行の総務局・事務部長と中西印刷との業務の内容や、投稿論文の入稿方法についての詳細について新関先生(滋賀大学)に確認。
- ・第46号の学会誌に掲載されている査読者一覧について、掲載するようになった経緯等について、新関先生(滋賀大学)に確認。

##### 2. 自由討議

- ・愛媛大学の千代田先生から愛媛大学の改組の状況(新学部・教育学部新課程・教育学部教職大学院等)についての報告があり、クォーター制の導入についてなどの意見交換が行われた。
- ・山田先生(鳴門教育大学)からサバティカル制度についての鳴門での状況紹介があり、各大学での実施状況等の意見交換が行われた。
- ・古草先生(香川大学)から香川大学の研究費についての紹介があり、各大学での研究費支給状況についての意見交換が行われた。

##### 3. 会計の引き継ぎ

- ・支部会費納入、出席者への旅費支給の完了
- ・前年度会計担当の古草先生(香川大学)から今年度担当の福井(愛媛大学)への引き継ぎを確認。

(愛媛大学 福井一真)

### ◆中国地区

下記要領で定例総会を開催いたしました。

日 時:平成26年6月21日(土) 14:00-17:00

会 場:島根県松江市 サンラポーむらくも

出席者:広島大学(1)、岡山大学(3)、山口大学(1)、島根大学(5)

オブザーバー参加:鳥取大学(1) ○計11名

〈 日程 〉

・14:00 ~ 14:45 研究発表

・15:00 ~ 17:00 総会

□研究発表

総会に先立ち、岡山大学の清田哲男講師が「ユニバーサル・デザインについて」と題して、また島根大学の有田洋子講師が「美術科授業開き論—

## 平成26年度 日本教育大学協会全国美術部門地区会報告⑤

その目的と内容」と題して研究発表を行い、質疑応答をした。

□総会（15：00-17：00）

総会では出席者自己紹介や地区理事挨拶、全国理事会の報告等につき、報告・協議事項として全国委員会、理事会報告、平成25年度地区会計報告、平成25年度会計監査報告などがあり、その後、協議、情報交換をした。

〈協議〉では、1：地区総会での議決について、2：鳥取大学の地区総会への参加についての2点が協議された。

1：の地区総会での審議事項の議決方法については次のことが承認された。

- ①審議事項に関しては、事前に当番校がとりまとめ、各大学へ検討依頼をおこなう。
- ②各大学でとりまとめた意見を1票とし、総会において多数決もしくは合議によって決する。
- ③急を要する案件についてはメールによる書面審議を可とする。
- ④大学からの参加者がいない場合の議決は、委任状を提出する。

2：の鳥取大学の地区総会への参加については、個人会員での参加は可能であることが確認された。しかし、実質的に当番校となるには負担が大きすぎるので、組織としての参加および議決権については、継続審議することとなった。

〈情報交換〉では教職実践演習に対する各大学での取り組みについて情報交換が行われた。

島根大学からは、各専攻が11回のプログラムを行う中で、美術教育専攻では卒業制作・卒業論文の内容を焦点化し、中学美術での授業を想定した教材開発を行っていることが報告された。

広島大学からは、教科の指導方法に関するリフレクション及び模擬授業の準備、模擬授業、卒研ゼミではない分野での教科内容のフォローアップを行っていることが報告された。

岡山大学からは、公立協力校でのインターンと事前事後指導を中心に行っていることが報告された。

山口大学からは、専攻では7コマ程度を担当し、各美術分野のまとめを卒業研究とは別に行っていることが報告された。

またそれぞれ課題があることも合わせて報告された。

（島根大学 新井知生）

## 平成26年度 各種委員会活動報告

### ■全国学校美術教育支援委員会

#### (1) 略称「学校支援委員会」新設〔敬称略〕

全国美術部門の各種委員会の一つとして平成26年度に全国学校美術教育支援委員会が新設されました。委員長には山口喜雄（宇都宮大学 26-27／全国美術部門代表代理・兼務）が選ばれました。委員長は後記の二つの部会を統括し、両部会メンバーが本委員会の委員です。全国造形教育研究大会山梨大会（韮崎市立韮崎中学校／山梨県立美術館 2014. 10. 30）に参加し、公開授業・研究協議会・都県代表者会などに出席して、情報交換や本委員会が支援すべき状況調査を行いました。

#### (2) 附属学校委員会改め「附属学校部会」

学校支援委員会との名称の混同を避けるために旧附属学校委員会を「部会」に改めました。メンバーは附属学校園長の現職や経験教員から選出され、附属学校園における美術部門活動の情報交換や交流活動を行いました。部会長には佐藤昌彦（北海道教育大学 26-27）、副部会長は伊藤文彦（静岡大学 26-27）、部員に片野一（福島大学 26-27）、遠藤敏明（秋田大学 25-26）が選ばれました。

#### (3) 広報活動強化の「学校教育支援部会」

学校教育支援部会の目的は、全国の学校における美術教育研究活動への支援です。部会長には天形健（福島大学 26-27）、副部会長は柳沼宏寿（新潟大学 26-27）が選出され、広報活動の強化をめざしました。全国造形教育研究大会（略称：全造連）本部役員会や東北ブロックの造形教育研究大会岩手大会（盛岡市 2014. 7. 30）などで本部会の広報活動を行いました。

#### (4) 本委員会と二つの部会の課題

全造連組織の中で「学校支援委員会」の存在や諸活動への認識が広まっていないのが現状です。今後は全国大会や地区大会のほか、各県開催の研究大会や研修行事等の情報収集に力を入れたいと思います。美術教育研究支援活動、情報提供活動などの展開が、日本における美術教育の研究や実践の向上に必要な不可欠と考えているからです。

ところで、各県の美術教育研究会への研究支援活動の主体は、基本的に各県の教員養成大学です。そのため、各県やブロックでの研究大会等の情報は、本委員会と各大学が連携して調査し、情報を共有することが望まれます。そのため、理事会や運営委員会等で、全国の美術教育活動等に関する情報交換を議題の一つにすることを提案します。

山口喜雄 nobuoya@cc. utsunomiya-u. ac. jp

### ■特別課題検討委員会

この度、3年間の委員会活動の成果をまとめた図工・美術科内容学テキスト「うみだす教科の内容学 - 図工・美術の授業でおきること」が完成致しました。本委員会の前身である教科内容学検討委員会の成果を受け継ぎ、今回テキストの第一弾を刊行することができ、ほっとしております。これもひとえに特別課題検討委員会委員の皆様、3年間に及ぶご尽力の賜物だと思います。委員の皆様、本当にお疲れ様でした。平均すると二か月に一度、委員の先生方にはわざわざ埼玉大学まで足をお運びいただき、毎回熱意に溢れた議論を展開することができました。この委員会の特徴は、実技系及び理論系教科専門の若い世代の教員が主力となって議論を進めていった点にあると思います。そこに美術科教育の先生方の貴重なアドバイスも加わり、「創造」という観点から制作実感を伴う教科の内容学に踏み込んでいきました。

教科の内容学を考える際、ともすると各分野の特質のディテールの議論に陥りがちになります。そうした細部について議論をすると際限がありません。その問題を考える前に、まずは図工・美術科教育の全体を統べる教育内容の軸線をはっきりと打ち出すこと、その軸線を「創造」概念に据えて、実際に制作に携わる教科専門の教員が自らの制作実感と教育の現場での経験とを重ね合わせながら、率直に意見を出し合い、その議論の中から今回のテキストの骨子と全体像が立ちあがってきた次第です。絵画・彫刻・デザイン・工芸・美術理論/美術史という従来の縦割りの分野を考察の前提としないで、あくまで図工・美術科を「うみだす教科」として大きく捉え、モノやコトが生み出されていくプロセスを子どもたちの創造プロセスのなかに丁寧に映し換えながら、そこで一体何が起こっているのか、それが子どもたちに何をもちたらし得るのかを、授業題材等の具体的事例に即しつつ考察しまとめました。教育学部で美術教育を学ぶ学生たちのために、実際の学校現場での図工・美術の授業を踏まえ、授業の中で生起する創造を、各委員がテキストの主旨に基づいて考察し報告するというパートも最後に設けております。また各委員が学生たちに身に付けてもらいたい力を授業でどう伝えているか、大学の授業実践例も簡潔に文中に挿入しました。

本テキストは図工・美術の教科内容を考えるための手がかりであり、議論のたたき台として機能すればと考えております。まずは会員の皆様にご一読いただき、忌憚ないご意見をお寄せいただければ幸いです。何卒よろしくお願いたします。ご意見は以下のメールにお願いできればと思います。

小澤基弘 mkozawa@mail. saitama-u. ac. jp



# 平成26年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会報告①

## 平成26年度 日本教育大学協会全国美術部門

平成26年10月3日(金) 17:00~17:30

場所: 福井大学(文教キャンパス)

総合研究棟V(教育系1号館)大会議室

### I. 挨拶

時間との関係で省略された。

### II. 報告・協議

#### 〈報告事項〉

#### 1 平成26年度学会会員現況

平成26年度部門会員・名簿状況について、芳賀総務局長より327名の会員が登録されている旨の報告があった。

#### 2 事業報告

(1) 平成25年度事業について、芳賀総務局長より配布資料をもとに報告があった。

#### 3 平成26年度 部門・学会の合同開会式・総会・協議会

(第1部)で報告済み。

#### 4 部門各種委員会

##### (1) 特別課題検討委員会

小澤委員長より、郡司明子委員から西村徳行委員に委員の交代があったことが報告された。また、報告書等の作成の進捗状況について報告があった。

##### (2) 学校美術教育委員会

山口委員長より、委員会の活動状況について報告があった。

##### (3) 全造連大学部会

新野部門部長より、部会の活動状況について報告があった。

#### 5 その他

##### (1) 全造連・山梨大会

新野部門部長より、10月30、31日に行われる全造連・山梨大会について報告があった。

#### 〈協議事項〉

##### 1 平成26年度役員・委員会

(1) 平成25年度人事役員・各種委員会について、芳賀総務局長より配布資料をもとに説明があり、承認された。

##### 2 決算・予算・事業計画

(1) 平成25年度決算(案)について、芳賀総務局長より配布資料をもとに説明があり、承認された。

(2) 平成25年度会計監査について、小澤監事より配布資料をもとに報告があり、承認された。

(3) 平成26年度事業計画(案)について、芳賀総務局長より配布資料をもとに説明があり、承認された。

(4) 平成25年度予算(案)について、芳賀総務局長より配布資料をもとに説明があり、承認された。

### III. その他

芳賀総務局長より、27年3月発行の会報について説明があり、地区理事に原稿執筆の依頼があった。

### IV. 挨拶

閉会に際し、小野学会副理事長、岩村部門副代表、山口代表代理から挨拶があった。



## 平成26年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会報告②

### 開会式／総会／協議会

日 時：2014年10月4日（土） 9:00～  
会 場：総合研究棟V（教育系1号館）  
大1講義室

〈開会式〉 9:30～9:40

司会進行：濱口 由美（福井大学）

1. 開会挨拶  
美術部門代表 増田 金吾（東京学芸大学）
2. 開催大学代表挨拶  
部門大会実行委員長 宮崎 光二（福井大学）
3. 閉会挨拶  
特別委員 山口 喜雄  
（宇都宮大学/部門代表代理兼務）

〈総 会〉 16:30～17:30

1. 挨拶  
美術部門代表 増田 金吾（東京学芸大学）
2. 議長団選出（議長候補：近畿地区・  
副議長候補：関東地区）
3. 議 事

#### 【報告事項】

- (1) 会員登録・入会等報告  
総務局長 芳賀 正之（静岡大学）
- (2) 平成25年度事業・決算報告
- (3) 平成25年度監査報告  
監 事 西村 俊夫（上越教育大学）  
小澤 基弘（埼玉大学）
- (4) 特別課題検討委員会報告  
委員長 小澤 基弘（埼玉大学）
- (5) 学校美術教育支援委員会  
委員長 山口 喜雄（宇都宮大学）
- (6) その他

#### 【協議事項】

- (1) 平成26年度役員・各種委員構成・任期  
部門代表 増田 金吾（東京学芸大学）
- (2) 平成26年度事業計画（案）・予算（案）  
総務局長 芳賀 正之（静岡大学）
- (3) 全国美術部門の組織・運営等  
部門部長 新野 貴則（山梨大学）

(4) 平成26年度 協議会の開催大学  
（H26 横浜大会）

渡辺 邦夫（横浜国立大学）

(5) その他

4. 議長団解任

5. 閉会の辞

〈協議会〉 10:00～11:25

テーマ：全国美術部門の原点に帰る  
～ 部門と学会が果たす役割とは ～

コーディネーター：芳賀 正之（静岡大学）

パネリスト：大嶋 彰（滋賀大学）

：白井 嘉尚（静岡大学）

コメンテーター：小野 康男（横浜国立大学/  
学会副理事長）



## 平成26年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会報告③

### 平成26年度 日本教育大学協会全国美術部門協議役員会

日時：平成27年3月14日（土）16：00～17：00  
会場：アットビジネスセンター東京駅 305号室

#### I. 挨拶

議事に先立ち、先ず岩村副代表から開会の辞があり、次いで増田代表より挨拶があった。

#### II. 報告・協議

（報告事項）

##### 1 平成26年度全国美術部門事業報告

芳賀総務局長より、配布資料をもとに、平成26年度の事業について報告された。

##### 2 平成26年度全国美術部門協議会報告

先ず芳賀総務局長から、学会との合同による協議会を実施した結果、多くの参加者があった旨の報告があり、今後も合同による協議会を継続する意向が示された。次いで大嶋特別委員より、部門の組織における教科専門教員の重要性が指摘された。

##### 3 全国学校美術教育支援委員会（部門）

山口委員長から、配布資料をもとに今年度の全国学校美術教育支援委員会の総括と課題について報告された。

##### 4 平成26年度部門会員現況

芳賀総務局長より、現在327名の会員の登録について報告された。

##### 5 日本教育大学協会への要望書

先ず増田委員長から、配布資料をもとに日本教育大学協会に提出した「中学校美術科担当専任教諭の適正配置に関する要望書」について報告があり、今後も継続した要望の必要性が説明された。次いで、部門独自の調査による教員配置数等の統計を提示すべきとの要望があった。また、情報収集の際の個人情報の扱いや、ミッションの再定義における数値と各県ごとの教員採用数との齟齬等の問題点が指摘された。それらの要望や指摘を受け、調査の内容や方法について、検討していく意向が示された。

#### （協議事項）

##### 1 平成27年度全国美術部門役員・委員会

芳賀総務局長より、役員・各種委員会について配布資料をもとに説明があった。来年度の地区全国委員を、各地区で選出し、メール等で通知するよう依頼があり、了承された。

##### 2 決算・予算・事業計画

###### (1) 平成27年度全国美術部門事業計画（案）

芳賀総務局長より、平成27年度事業計画（案）について、配布資料をもとに説明があり、承認された。

###### (2) 平成26年度全国美術部門決算・平成27年度全国美術部門予算（案）

芳賀総務局長より、平成26年度決算・平成27年度予算（案）について説明があり、最終的な決算および予算（案）は、26年度終了後に提示し、審議することが確認された。

##### 3 特別課題検討委員会（部門）

先ず小澤委員長より、報告書作成について報告があった。次いで、新たな委員の選出等、今後の活動の方向性について提案があった。

##### 4 大学造形教育連絡協議会

新野部門部長より、配布資料をもとに覚書の変更点等について説明があり、確認された。

##### 5 全国美術部門の改善

芳賀総務局長より、部門会員の現状を円滑に把握していく方策について提案があり、今後全国地区委員に地区ごとの名簿整理が依頼された。

#### III. 挨拶

岩村副代表より閉会の辞があった。

#### 重要なお知らせ 運営委員会体制の変更について

現在の総務局体制になって、私どもは日本教育大学協会全国美術部門及び大学美術教育学会の効率的で持続可能な運営をめざしてきました。その過程では諸課題が見いだされつつあります。その一つに運営に携わる会員の業務の負担増があります。これまで各種委員会委員長は全ての運営委員会に参加していただきましたが、運営委員会の方法を検討した結果、議題に応じて参加していただくことで少しでも負担の軽減を目指すということを考えました。よりよい運営を目指しておりますので、各位におかれましては今後ともご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

全国美術部門代表 増田金吾

## 平成25年度 事業報告

|                      |   |
|----------------------|---|
| 4月1日(日)              | 日本教育大学協会への事業報告<br>(H24.12-H25.3事業分)   |
| 5月31日(土)             | H24 論文集『日本教育大学協会研究年報』査読候補者推薦  |
| 6月9日(日)              | 部門運営委員会<br>(オフィス東京会議室)  |
| 6月中旬                 | 全国美術部門協議会・総会ほか日程、<br>「京都大会案内(第2次)」発送<br>平成24年度会計監査<br>(増田監事・小澤監事)   |
| 9月10日(火)             | 「部門会報・45号」、「京都大会案内<br>(最終)」   |
| 9月15日(日)             | 部門運営委員会(東京学芸大学)   |
| 10月11日(金)            | 拡大総務局会・拡大理事会(役員・委員<br>長出席)・第1回全国美術部門役員<br>会、各種委員会(全造連大学委員会:<br>全美協との合同協議<br>※H20以降、附属学校委員会、特別課<br>題検討委員会)(京都教育大学) |
| 10月12日(土)            | 全国美術部門「京都大会」開催(京都<br>教育大学)、部門総会、部門協議会   |
| 10月13日(日)            | 午後、次期開催大学への引継ぎ(次期<br>開催大学-京都教育大学)   |
| 11月28日(木)<br>~29日(金) | 第66回全国造形教育研究大会2013/<br>東京大会   |
| 12月2日(月)             | 日本教育大学協会への事業実績報告<br>(H25.4-12事業分)   |
| (平成26年)              |   |
| 1月24日(金)             | 日本教育大学協会全国研究部門連絡<br>協議会(東京学芸大学本部)   |
| 1月25日(土)             | 部門運営委員会(東京学芸大学)   |
| 3月15日(土)             | 拡大総務局会・拡大理事会(役員・委員<br>長出席)<br>第2回全国美術部門役員会、各種委員<br>会(TKP 東京・京橋)   |
| 3月中旬                 | 「部門会報・第46号(大会予告)<br>発行・郵送<br>(4月1日)<br>日本教育大学協会への事業報告<br>(H25.12-H25.3事業分)  |

## 平成26年度 事業計画

|                      |  |
|----------------------|--|
| 5月31日(土)             | H26 論文集『日本教育大学協会研究年<br>報』査読候補者推薦   |
| 6月22日(日)             | 第1回 運営委員会<br>(静岡/パルシェ7F・会議室)   |
| 6月下旬                 | 「福井大会案内(第1次)」研究発表<br>(口頭)・投稿論文登録の「申込案内」<br>「福井大会案内(2次/最終)」                                   |
| 8月18日(月)             | 造形芸術教育協議会関係(三学会連携<br>協議)   |
| 9月10日(水)             | 「部門会報・46号」、「福井大会案内<br>(最終)」  |
| 9月中旬                 | 平成25年度会計監査<br>(西村監事・小澤監事)  |
| 9月21日(日)             | 第2回 運営委員会<br>(静岡/パルシェ7F・会議室)   |
| 10月3日(金)             | 拡大総務局会・第1回拡大理事会(役<br>員・委員長出席)・第1回全国美術部<br>門役員会、各種委員会(全造連大学委<br>員会:全美協との合同協議)                 |
| 10月4日(土)             | 第53回大学美術教育学会「福井大会」<br>開催式(福井大学)、学会総会、研究<br>発表(口頭)、学会・部門合同懇親会                                 |
| 10月5日(日)             | シンポジウム、ポスター発表・ポスタ<br>ー展示、研究発表(口頭)、閉会式、<br>大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-<br>横浜国立大学)                       |
| 10月30日(木)<br>~31日(金) | 第66回全国造形教育研究大会2014/<br>山梨大会  |
| 12月1日(月)             | 日本教育大学協会への事業実績報告<br>(H26.4-12事業分)  |
| (平成27年)              |  |
| 1月23日(金)             | 日本教育大学協会全国研究部門連絡<br>協議会(東京学芸大学本部)  |
| 2月21日(土)             | 部門運営委員会(静岡/パルシェ7<br>F・会議室)   |
| 3月中旬                 | 拡大総務局会・第2回拡大理事会(役<br>員・委員長出席)・第2回全国美術部<br>門役員会、各種委員会(場所 未定)<br>次年度 組織・運営に関する執行部・<br>各役員の引き継ぎ |
| 3月末日                 | 「部門会報・第47号(横浜大会予告)<br>発行・郵送  |
| 4月1日                 | 日本教育大学協会への事業報告<br>(H26.12-H27.3事業分)  |

日本教育大学全国美術部門  
平成25年度 決算

●収入

|     | 費目    | 平成25年度予算  | 平成25年度決算  | 増減      |
|-----|-------|-----------|-----------|---------|
|     | 前年度繰越 | 900,000   | 917,041   | -17,041 |
| 年会費 | 会費収入  | 930,000   | 870,000   | 60,000  |
| 助成金 | 教大協成金 | 80,000    | 80,000    | 0       |
|     | 収入合計  | 1,910,000 | 1,867,041 |         |

●支出

|          | 費目         | 平成25年度予算  | 平成25年度決算  | 増減       |
|----------|------------|-----------|-----------|----------|
| 補助金及び負担金 | 全国協議会補助金   | 200,000   | 200,000   | 0        |
|          | 全造連負担金     | 4,000     | 4,000     | 0        |
| 印刷製本費    | 部門会報通信刊行費  | 100,000   | 54,290    | 45,710   |
|          | 名簿刊行費      | 120,000   | 0         | 120,000  |
|          | 封筒その他印刷費   | 30,000    | 0         | 30,000   |
| 運営費      | 特別課題検討委員会費 | 200,000   | 80,100    | 119,900  |
| 事務経費     | 支出手数料      | 5,000     | 420       | 4,580    |
|          | 通信費        | 5,000     | 5,000     | 0        |
|          | 郵送費        | 50,000    | 0         | 50,000   |
|          | 事務費        | 5,000     | 5,000     | 0        |
|          | 雑費         | 5,000     | 0         | 5,000    |
| 委託費      | 事務部業務委託費   | 50,000    | 36,000    | 14,000   |
| 予備費      | 予備費        | 1,136,000 | 1,482,231 | -342,480 |
|          | 合計         | 1,910,000 | 1,867,041 |          |

日本教育大学全国美術部門  
平成26年度 予算(案)

●収入

|     | 費目    | 平成25年度予算  | 平成26年度予算  | 増減       |
|-----|-------|-----------|-----------|----------|
|     | 前年度繰越 | 900,000   | 1,482,231 | -582,231 |
| 年会費 | 会費収入  | 930,000   | 960,000   | -30,000  |
| 助成金 | 教大協成金 | 80,000    | 80,000    | 0        |
|     | 収入合計  | 1,910,000 | 2,522,231 |          |

※ 会費収入=@3,000円×320名

●支出

|          | 費目         | 平成25年度予算  | 平成26年度予算  | 増減       |
|----------|------------|-----------|-----------|----------|
| 補助金及び負担金 | 全国協議会補助金   | 200,000   | 200,000   | 0        |
|          | 全造連負担金     | 4,000     | 4,000     | 0        |
| 印刷製本費    | 部門会報通信刊行費  | 100,000   | 100,000   | 0        |
|          | 名簿刊行費      | 120,000   | 0         | 120,000  |
|          | 封筒その他印刷費   | 30,000    | 30,000    | 0        |
|          | 委員会等報告書    | 0         | 200,000   | -200,000 |
|          | 特別課題検討委員会費 | 200,000   | 200,000   | 0        |
| 事務経費     | 支出手数料      | 5,000     | 5,000     | 0        |
|          | 通信費        | 5,000     | 5,000     | 0        |
|          | 郵送費        | 50,000    | 10,000    | 50,000   |
|          | 事務費        | 5,000     | 5,000     | 0        |
|          | 雑費         | 5,000     | 5,000     | 0        |
| 委託費      | 事務部業務委託費   | 50,000    | 50,000    | 0        |
| 予備費      | 予備費        | 1,136,000 | 1,708,231 | -572,231 |
|          | 合計         | 1,910,000 | 2,522,231 |          |

## 第54回 大学美術教育学会 横浜大会〈案内〉

- 主催 大学美術教育学会、日本教育大学協会全国美術部門  
大学美術教育学会・教大協会全国美術部門横浜大会実行委員会
- 協賛 横浜国立大学
- 後援 横浜市教育委員会（申請中）神奈川県教育委員会（申請中）
- 開催日 2015年 9月20日（日）21日（月祝）
- 大会テーマ「多様な文化の時代における図画工作・美術科教員の育成」
- シンポジウムテーマ「美術の現状 教科としての価値の再定義」

ごあいさつ

平成27年度大学美術教育学会（横浜大会）並びに、日本教育大学協会全国美術部門総会・協議会を横浜国立大学で開催いたします。口頭発表、ポスター発表、ポスター展示の研究発表、シンポジウム（詳細後述）、学部学生の為の美術教育学生会議などが開催されます。また、新たに大会併設企画「造形教育実践フォーラム」を開催、地元現職教員による授業実践報告の展示と共にセッションを企画しました。大学の研究者教員が養成してきた教育現場の教員との交流や連携こそ最も大切なことではないかと考えての企画です。会員の皆様、並びに、興味関心のお有りの方ならどなたでもご参加いただけます。振るって御参加の程、心よりお待ち申し上げます。

横浜大会の全体テーマは、「多様な文化の時代における図画工作・美術科教員の育成」です。急速な国際化・情報化に伴い「多様な文化や差異を受容する新たな教育理念」が必要とされる今日、様々な「感性」や「表現」、そしてそれを開く「教員養成の未来」について、光を当てて参りたいと思います。今、子ども達を取り巻く社会や自然の環境には大きな変動が起きています。今こそ、人はどうあるべきか？何をなすべきなのか？何が必要なのか？といった、人が生きる意味や人の存在そのものに深い問いかけが必要になってきています。本大会は「図画工作・美術科教員の育成」を全体テーマとしてかかげ、図画工作・美術教育の意義を深い次元で問い直す大会としたいと思います。

大会シンポジウムのテーマは「美術の現状 教科としての価値の再定義」としました。図画工作・美術という教科が、現在、置かれている現状と 課題について教科の外部からの視点も必要です。そのため、特別外部招聘パネリストとして、東京国立博物館学芸企画部企画課デザイン室長の木下史青 氏をお迎えし、19世紀から20世紀にかけて視覚聴覚のアナログメディアが出現、20世紀後半にデジタルメディアに移行した世界に於いて、本物、或は、モノのもつ価値について再考したいと思います。またもう一人、外部からパネリストとして、イタリアルネサンス期の美術を専門とする一方、美術研究の方法論の最先端で活躍され、ご自身「思考のイメージ論的転回」というテーマを提唱されている京都大学人間環境学研究所の岡田温司 教授もお迎えし、芸術の概念自体が変容した20世紀に続く21世紀に於ける「図画工作・美術科教育の将来あるべき姿」について多角的に議論します。

図画工作・美術科教員の養成に於いて、教員を目指す学生は何を学修するのか。とりわけ、子どもたちの能動的で創造性豊かな学びが要求されている現代に於いて、「感性」と「表現」の教科である図画工作・美術科はいかなる役割を果たしていくのかについて考えたいと思います。

今、様々な「時代の岐路」に於いて、子どもの成長・発達に美術教育が如何に貢献できるのか、美術教科の必要性そのものが改めて問われているのではないのでしょうか。本大会は美術教育に関する最新の研究や提言、並びに参加者の皆様との交流の場を複数準備しております。是非、御参加いただき、参加者の皆様方、相互に実りある大会となりましたらなら、開催大学として、これに勝る喜びはございません。重ねて多数のご参加の程、お願い申し上げます。

横浜大会実行委員長 渡辺邦夫

## 全国美術部門の よりよい運営へ向けて

平成 26 年度全国美術部門部長  
新野貴則（山梨大学）

日本教育大学協会全国美術部門（以下、全国美術部門）の管理・運営の効率化と充実を目指し、平成 20 年度から現在の総務局の体制になり 7 年が経過しましたが、全国美術部門のより充実した活動をめざし、引き続き工夫改善を進めているところです。

平成 26 年度には、これまで以上に効率的かつ持続可能な運営をめざして、全国美術部門及び大学美術教育学会の業務の一部を学会の専門会社である中西印刷にアウトソーシングしました。これに伴い、会員の情報変更手続きや学会への参加・発表手続きがウェブ上でできるようになりました。また、これと同時に会員の先生方と情報を確実に共有できるよう、より分かりやすいものを目指して部門・学会のホームページを全面的にリニューアルしてきました。この他にも、部門のより充実した運営へ向けて新たな事業に取り組んでいるところです。この場をお借りしてご報告させていただき、改めてご理解とご協力をお願い致します。

### ●大学造形教育連絡協議会の設立

平成 26 年 10 月に福井大学で開催された全国美術部門の総会において、大学造形教育連絡協議会の設立が承認されました。この協議会は、全国美術部門と公立・私立大学の造形美術教育に携わる教員によって組織されている全国大学造形美術教育教員養成協議会（以下、全美教）の二つの団体によって組織されます。全国美術部門と全美教の連絡・連携を図ることによって、造形美術教育の一層の充実と発展を目指し立ち上げられました。

この目的を達成するために、以下の事業を実施することを「大学造形教育連絡協議会規程」の第 4 条に定めています（当該規程は全国美術部門ホームページに掲載されていますので、ご参照ください）。

- (1) 本協議会で計画・運営される事業の共同開催
- (2) 美術教育諸団体との連携・協力
- (3) 造形美術教育に関する研究・調査・提言
- (4) その他、本協議会の目的を実現するための諸活動

平成 26 年度には、上記の(2)にかかわって、全国造形教育連盟の第 68 回全造連山梨大会に全国

美術部門と全美教が連携協力しながら参画することができました。これまでも公立・私立大学の先生方とともに協力・参加してきましたが、組織的に連携することでより密な参画を実現することができました。全国美術部門の先生方には指導助言者として協力していただいたこと、あらためて御礼申し上げます。また、平成 27 年度は岐阜大会が予定されております。ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

平成 27 年度には、(3)にかかわる事業を計画しております。ご承知のことと思いますが、日本教育大学協会へ「中学校美術科担当専任教諭の適正配置に関する要望書」を提出してきました（会報 No. 47 増田代表による『美術部門代表就任のご挨拶』）。そして、平成 26 年度 3 月の拡大理事会では継続的に要望書を提出していく必要があることを確認したところです。要望書を提出する際には、実態を明確な数値で表した資料を添付することで説得力が増します。そこで、全国の中学校・高等学校美術科担当教員の配置状況の調査を大学造形教育連絡協議会として実施することを検討しております。

今日、造形美術教育に携わる教員の業務が多様化し、多忙化していると思われませんが、様々な組織と連携・協力することによって、継続的にかつより強力に造形美術教育の一層の充実と発展を目指して活動していくことを目指していきます。

### ●全国美術部門の改善（名簿の整理）

全国美術部門の重要な業務の一つとして、部門会員の現状を正確に把握していくことが挙げられます。これを円滑に進めるためには、全国の地区会の協力が欠かせません。平成 26 年度 3 月の拡大理事会では、全国地区委員に地区ごとに名簿を整理していただくよう依頼がなされました。本会報の冒頭、岩村副代表の言にもありますように全国美術部門は各地区会の活動が基礎となっています。全国美術部門の組織力を高めるためにも、部門会員の皆様にはご理解とご協力をお願い申し上げます。

### 【総務局広報室】

芳賀正之（静岡大学）  
佐藤賢司（大阪教育大学）  
新野貴則（山梨大学）

